



写真：四方 忠男さん

石狩川 地図と歴史の旅

本誌の制作へのご協力ありがとうございます。

大槻 政勝さん、斉藤 和さん、四方 忠男さん、臺 洋子さん、
竹内 巖さん、松下 實さん(五十音順)、旭川市中央図書館

あしたを創る 北の知恵
北海道開発局



旭川開発建設部 旭川河川事務所

〒079-8411 旭川市永山1条21丁目3番21号
TEL 0166-48-2131

この中に掲載されている図版、地図、写真は複製、転写等に使用することはできません。

ふるさとの 川 を探ってみよう



表紙写真：旭川市中央図書館

い し か り が わ

石狩川

ち ず

れ き し

た び

地図と歴史の旅

時代の川をさかのぼってみよう

あしたを創る 北の知恵
北海道開発局



旭川開発建設部



川の歴史を遡ってみよう。

旭川は川のまち。大小合わせると約180本もの流れがあります。それぞれの川はときに洪水をおこしながらも、人々に豊かな恵みをあたえ、時間を刻むように、歴史の中を流れてきました。この川の移り変わりを「地図」や「写真」を通じて、遡ってみましょう。

いしかり
石狩川
●長さ：268km
●流域面積：14,330km²

源を大雪山系の石狩岳（標高1967m）に発します。その後、大雪ダム、層雲峡を流れ上川盆地へ入り上川管内の中心旭川市を経て石狩平野をうるおしながら日本海に注いでいます。

その由来は、アイヌ語でイシカラ（isikara）「非常に曲がりくねった川」の意味で、ここに河口付近は蛇行が著しかった事から、このように名づけられたようです。

名前の由来

ちゅうべつ
忠別川
●長さ：59.2km
●流域面積：1,062.6km²

源を大雪山系の忠別岳（標高1963m）に発します。その後、天人峡、忠別ダムを経て旭川市街部で美瑛川と合わせて石狩川に合流しています。

忠別川の由来は、チウベツ（Chiu-pet波、川）波だつ川、それが後に民間語源解によってチユベツ（Chup-pet日、川）となり、意訳して旭川という地名が生まれたとも言われています。

名前の由来

べべつがわ
辺別川
●長さ：47.5km
●流域面積：195.6km²

源を大雪山系のトムラウシ山（標高2141m）西方の三川台西斜面に発します。その後、西聖和地区の辺別原野を経て美瑛川に合流しています。

語源は「べべつ⇒水・川」で、水量豊かで流れの早い川という意味があります。

名前の由来

びえい
美瑛川
●長さ：67.6km
●流域面積：717.6km²

源を十勝岳連峰のツリガネ山（標高1708m）付近に発します。白金温泉、美瑛町を流れ辺別川等の支川を合わせ旭川市街部で忠別川に合流しています。

語源は、アイヌ語で、ピエ（Piye）と呼び「油ぎった」という意ではあるが、或いはピエ・ベツ（Pi-pet）「石」、「川」が転訛してピエ・ベツとなり下部を省略して「ピエ」となったのかもしれないといわれています。

名前の由来

おサラッペ川
オサラッペ川
●長さ：25.7km
●流域面積：195.5km²

源を鷹栖町と和寒町との境界線にある啖伊尻、別名白妙山系に発します。鷹栖町内を流れ石狩川と合流しています。

語源はアイヌ語の「オ・サル・ベツ⇒川尻・葦原・川」からきています。

名前の由来

うしゅべつ
牛朱別川
●長さ：36.8km
●流域面積：481.4km²

源を当麻町と上川町との境界の米飯山（標高920m）に発します。その後、上川盆地に入り旭川市街部を貫流し石狩川に合流しています。

語源は、アイヌ語でウシ・シベツ「鹿の蹄跡多き川」が転訛したと言われています。

名前の由来

ながやましんかわ
永山新川
●長さ：5.7km

牛朱別川分水路事業（昭和59年～平成16年）で生まれた新しい川です。たくさんの野鳥が羽を休める事でも知られています。

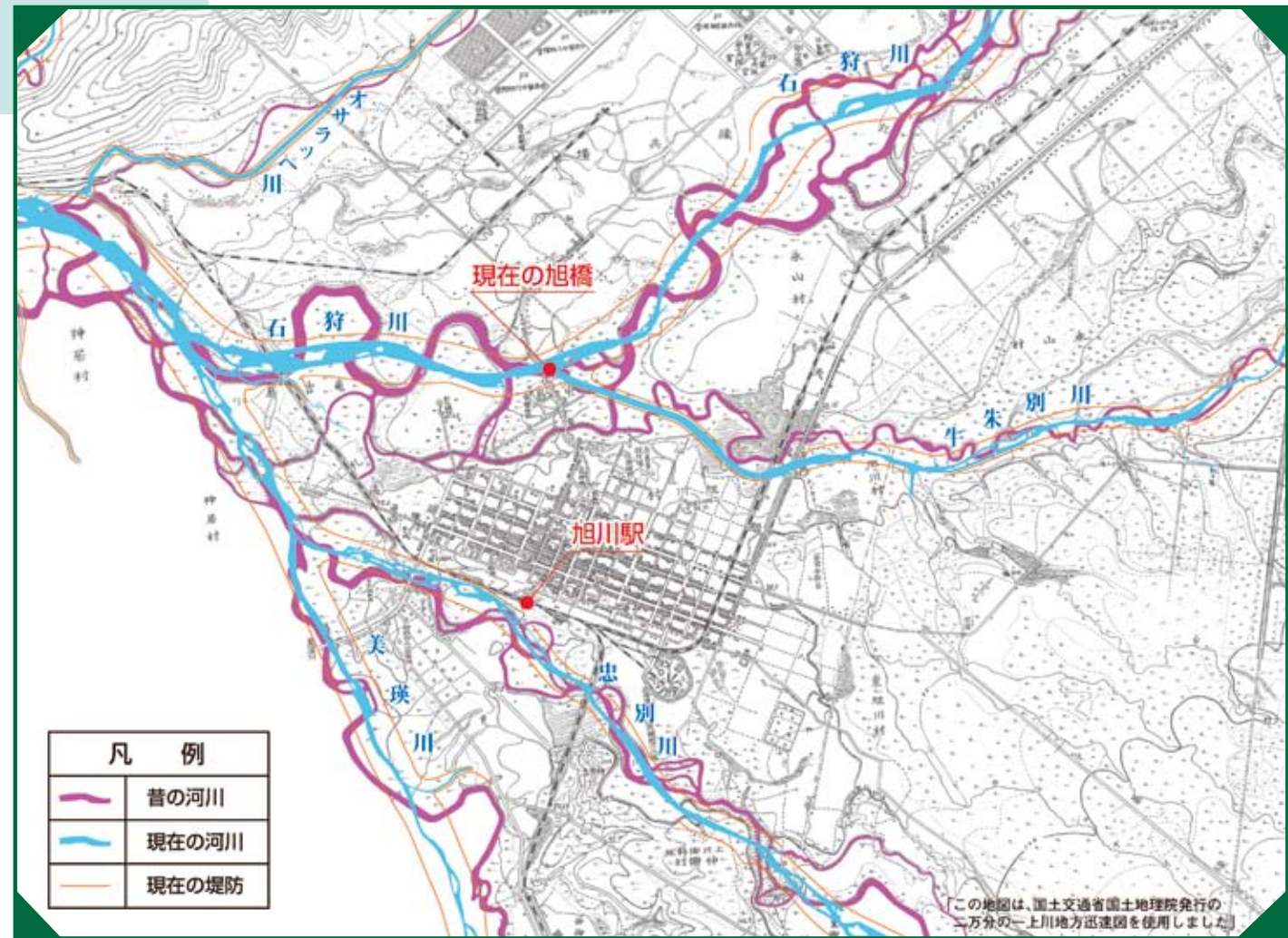
一般公募により「永山新川」と名付けられました。

名前の由来



姿を変えながら 歴史の中を流れてきた石狩川。

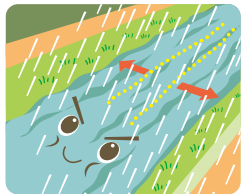
●●●●
昔の川の地図(明治時代・33年頃)の上に現在の川の位置を重ねてみると…



ポット
大きく変わった河川の姿

.....

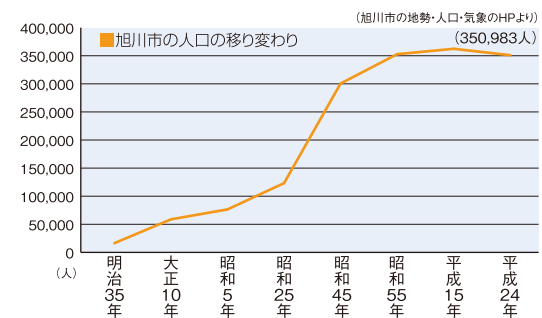
昔の河川では蛇行している部分が多くみられましたが、現在はカーブが緩くなり、川幅も広がっています。
新しい川が出来るなど、河川は時代と共に姿を変えていきました。



ポット
人口も増加していきました

.....

地図の変化に合わせて旭川市の人口も増えていきました。



●●●● 地図で見る河川の変遷

明治31年
(1898)頃
(7ページ)



大正8年
(1919)頃
(9ページ)



昭和5年
(1930)頃
(11ページ)



昭和28年
(1953)頃
(13ページ)



昭和44年
(1969)頃
(15ページ)



昭和55年
(1980)頃
(17ページ)



平成12年
(2000)頃
(19ページ)



平成23年
(2011)
(21ページ)



牛朱別川【うしゅべつがわ】 切りかえ工事

昭和5～7年
(1930～1932) とくに洪水の多かった牛朱別川の流れを切りかえる大工事

牛朱別川はたくさんの支流を合流し、旭川市街を大きく蛇行して流れており、大雨が降ると、石狩川が牛朱別川を逆流することも相まって、市内を水びたしにしていた。このため、牛朱別川を切りかえる工事が行われました(切りかえ前の牛朱別川のあった場所は、今、ロータリーになっています)。その後、埋め立てられた牛朱別川は、商業用地や住宅用地として開発され、旭川市発展の大きな要因となりました。



石狩川と牛朱別川合流点



大正11年8月洪水 常盤通り

写真：旭川市中央図書館



所蔵：旭川市中央図書館

明治、大正期の主な水害

- 明治31年5月、8月、9月
- 明治37年7月
- 大正4年7月
- 大正8年7月
- 大正11年8月
- 大正12年8月
- 大正15年8月

POINT 今の牛朱別川

現在、大雨に負けない安全で親しみのある牛朱別川づくりを進めています。



切りかえ工事のようす(昭和5～7年)(写真：旭川市中央図書館より)



永隆橋付近の牛朱別川



現10条12丁目～14丁目付近の牛朱別川



現石狩川合流点付近 切りかえ工事後

永山新川【ながやましんかわ】 (牛朱別川分水路)



昭和59～平成16年
(1984～2004) 洪水から旭川を守るために、新しい水路「永山新川」をつくった大工事。

●人口や住宅がふえて、また旭川には洪水の不安が…

切りかえ後もしばらくは安全だった牛朱別川ですが、昭和の後期になり、市街地が広がるなど都市化が進みました。このため大雨が一気に中心部に押し寄せる「都市型洪水」の危険が高まってきたのです。そこで牛朱別川の水を石狩川へ安全に流すことで洪水を防ぐようにしました。こうして生まれたのが永山新川(平成15年の写真図を参照/30ページ)です。



POINT 永山新川の野鳥観察

エサやりは鳥インフルエンザなどの感染症の発生による、人の健康への影響や河川環境汚染など様々な問題を引き起こす可能性があります。野鳥は自然のまま見守り観察をしましょう。

POINT 人にやさしいバリアフリーの遊歩道

永山新川の岸边は、ゆるやかな道(バリアフリー…階段などが無いこと)が取り付けられています。そのため、車いすなどでも水辺に近づくことができます。



永山新川の水辺のようす



ハクチョウ



小学生による川の調査



市民参加の植樹

明治31年頃

旭川市の人口データ 16,441人（明治35年9月）



かわとまちのようす

忠別川と美瑛川の交わるところ(合流点)あたりに、碁盤の目のような道路がつくられています。北海道官設鉄道が旭川まで伸び、旭川と札幌が鉄道によって結ばれました。川は人の手が加わらない、自然のままです。明治31年の大洪水をはじめ、雪どけの時期や、ちょっとした雨が降るたびに水害が起こっていました。

川のできごと

- 明治31年(1898)9月——9日間降り続いた雨による川の氾濫(治水調査のきっかけとなった)
- 明治34年(1901)——石狩川、忠別川、美瑛川治水調査
- 明治37年(1904)7月——雨による川の氾濫
- 明治42年(1909)——明治37年の大洪水を基に治水計画を作る(旭川市街地に堤防設置を計画)

●当時の旭川のできごと

- 明治2年(1869) 今まで蝦夷地(えぞち)と呼ばれていた名前を北海道と改称。
- 明治23年(1890) 上川郡に旭川・神居・永山の三村を置く。
- 明治24年(1891) 永山村に、屯田兵入地。(翌年、現、東旭川地区である旭川村に入地)
- 明治31年(1898) 滝川・旭川間に鉄道が開通。(旭川駅ができる)
- 明治33年(1900) 旭川村が、旭川町と改称。
- 明治34年(1901) 第7師団司令部(現在の陸上自衛隊第2師団)、札幌より移転。(旭川発展の要因となる)
- 明治35年(1902) 氷点下41.0℃を記録(国内の最低気温を記録)旭川町に一級町村制施行。
- 明治37年(1904) 初代の旭橋完成。「旭橋」と命名。

- 世界や日本では… 明治27年(1894) 日清戦争が起きる
- 明治29年(1896) 第1回近代オリンピック大会がアテネで開かれる
- 明治37年(1904) 日露戦争が起きる
- 明治40年(1907) 義務教育が6力年となる(それまでは4力年)
※今の6・3年は1947年(昭和22年)に始まりました
- 明治45年(1912) 7月、明治天皇が崩御(天皇がおなくなりになること)元号が大正となる



近文付近か(明治34年頃)



忠別橋(明治24年)

写真:旭川市中央図書館

あさひかわ歴史ものがたり

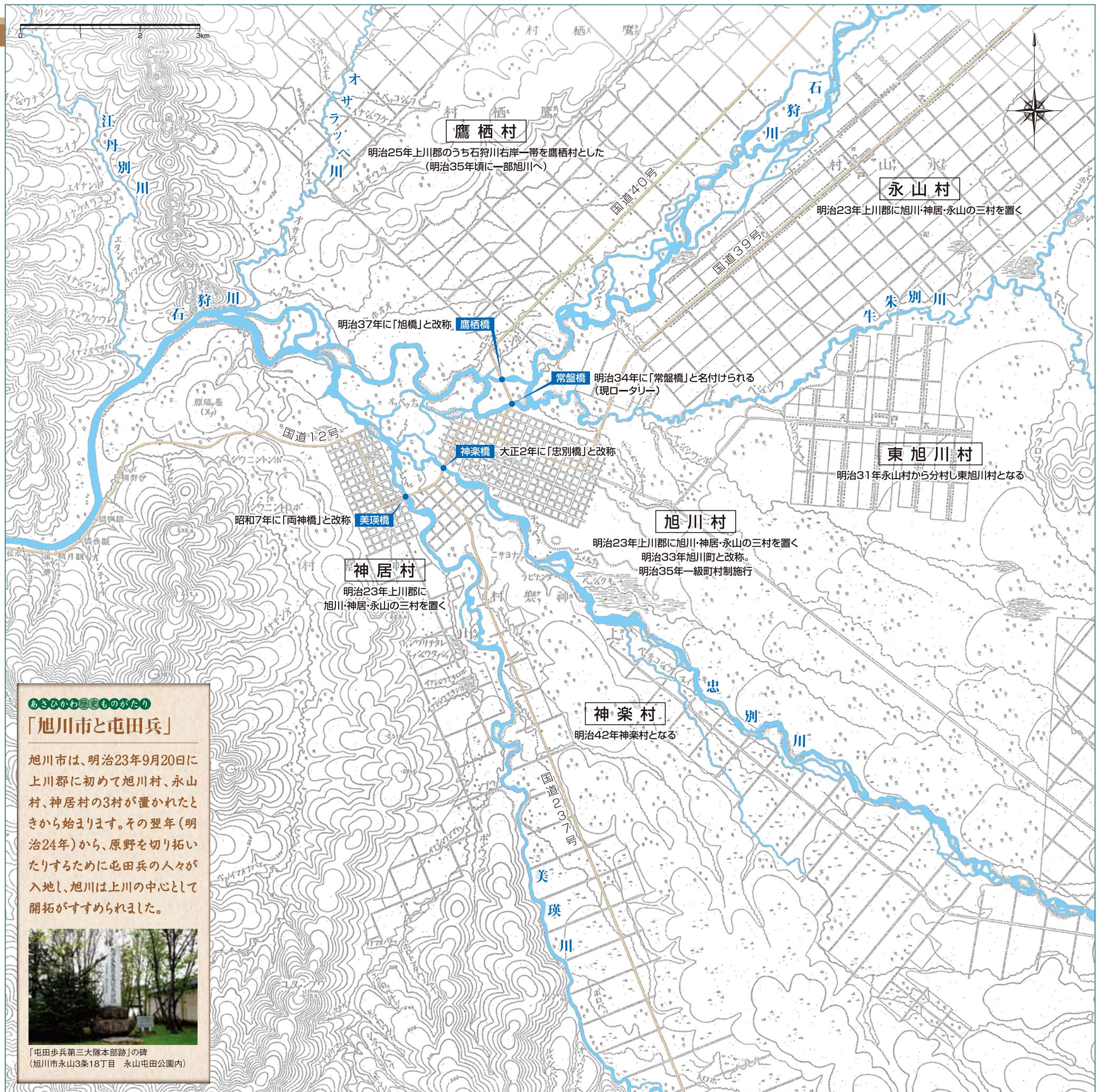
「原野をきりひらいた旭川の開拓の話」

「～測量をはじめようにも、まず大きな木をたおして、草をかって、ようやく測量の道具を使えるような状態で、上川郡(上川支庁)の原野の測量には半年もかかった。舟でカムイコタンに行き、そこから歩いて旭川に行くのに九日かかった。その頃のキツネ、タヌキ、クマのすみかが、今では永山村、旭川村になって、札幌から一日で行けるようになった。」

※北海道植民地選定報文より(内容を変えずに文章を分かりやすくしています)

■明治31年発行図

「この地図は、国土交通省国土地理院長の承認を得て、同院発行の五万分の一地形図を複製した物である。(承認番号 平16道複 第712号)」



あさひかわ歴史ものがたり

「旭川市と屯田兵」

旭川市は、明治23年9月20日に上川郡に初めて旭川村、永山村、神居村の3村が置かれたときから始まります。その翌年(明治24年)から、原野を切り拓いたりするために屯田兵の人々が入地し、旭川は上川の中核として開拓がすすめられました。



「屯田歩兵第三大隊本部跡」の碑(旭川市永山3条18丁目 永山屯田公園内)

大正8年頃

旭川市の人口データ 58,805人（大正10年9月）



かわとまちのようす

明治41年からは電気も通され、旭川はより町らしくなってきました。大正2年には富良野方面にのびる鉄道ができ、また市街地の他の道路もしだいに完成しています。春光には練兵場（今の自衛隊駐屯地）ができています。川はほとんど自然のままで、洪水になやまされています。

川のできごと

- 大正4年(1915) 石狩川と忠別川で築堤護岸(ちくていごかん)工事が始まる
- 大正4年(1915)7月 大雨による川の氾濫
- 大正11年(1922)8月 台風による川の氾濫

市街地を守るため石狩川、忠別川に応急的に堤防を設置

●当時の旭川のできごと

- 明治41年(1908) 旭川電灯株式会社(現、北海道電力)、電力供給開始。
- 明治45年(1912) レルヒ中佐が旭川7師団にスキーを指導。
(春光台公園に北海道スキー発祥の地の記念碑があります。)
- 大正3年(1914) 旭川町が旭川区制施行。
- 大正5年(1916) 常磐公園開園。
- 大正11年(1922) 市制施行(旭川区が旭川市になる。)

世界や日本では… 明治45年(1912) 第5回オリンピック(ストックホルム)大会初参加
大正3年(1914) 第一次世界大戦が起きる
大正12年(1923) 9月1日関東大震災が関東地方を襲う
9月1日にちなんだ1960年「防災の日」に決められた

モノクロ写真館

何度もおこる洪水…

当時は、まだ本格的な工事が始まっていないために、川の水が溢れやすく、幾度も洪水が起こっていました。

写真:旭川市中央図書館



石狩川右岸 近文地先(大正11年8月)



公園館前(大正11年8月)

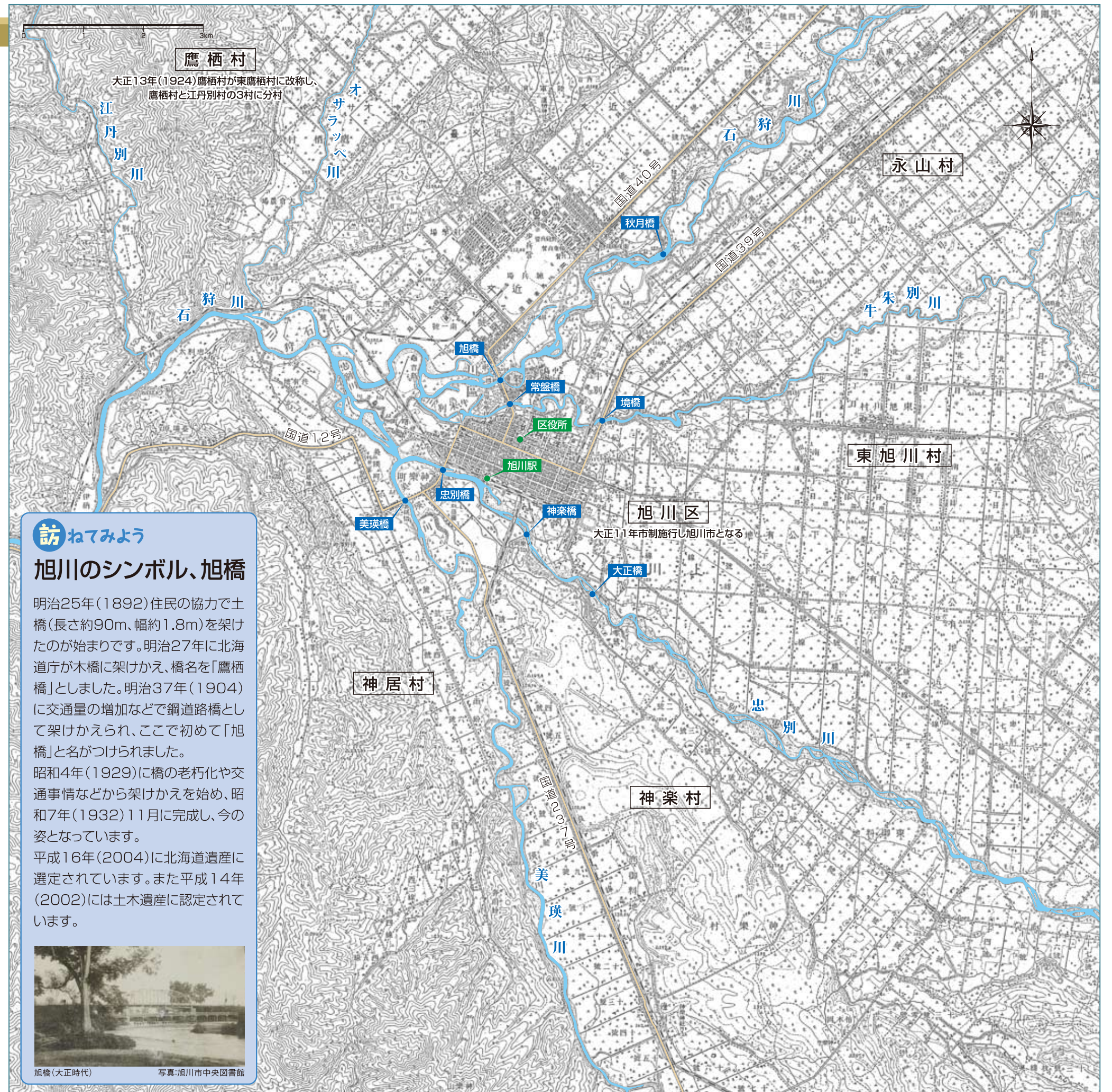


旭川区曙遊郭の浸水救助船の活動状況(大正4年)



■大正8年発行図

「この地図は、国土交通省国土地理院長の承認を得て、同院発行の五万分の一地形図を複製した物である。(承認番号 平16道複 第712号)」



訪ねてみよう

旭川のシンボル、旭橋

明治25年(1892)住民の協力で土橋(長さ約90m、幅約1.8m)を架けたのが始まりです。明治27年に北海道庁が木橋に架けかえ、橋名を「鷹栖橋」としました。明治37年(1904)に交通量の増加などで鋼道路橋として架けかえられ、ここで初めて「旭橋」と名がつけられました。昭和4年(1929)に橋の老朽化や交通事情などから架けかえを始め、昭和7年(1932)11月に完成し、今の姿となっています。平成16年(2004)に北海道遺産に選定されています。また平成14年(2002)には土木遺産に認定されています。



旭橋(大正時代)

写真:旭川市中央図書館

昭和5年頃



旭川市の人口データ 76,541人 (昭和5年9月)

かわとまちのようす

昭和に入ると街の中に市電(旭川電気鉄道)の線路ができあがります。鉄道も石北線(今のJR石北本線)が完成し、オホーツク地域との行き来も早くなりました。昭和2年から、忠別・美瑛川で治水工事も始まり、昭和5年には、牛朱別川の切りかえ工事が始まり、昭和7年に完成しました。

川のできごと

- 昭和5年(1930) 牛朱別川切りかえ工事が始まる
- 昭和7年(1932)8月 大雨による川の氾濫
- 昭和7年(1932) 牛朱別川切りかえ工事完了、石狩川で旭川市街の堤防計画を実施

●当時の旭川のできごと

- 昭和4年(1929) 旭川市街軌道(株)の市内電車線開通
第一回慰霊音楽大行進(今の北海道音楽大行進)開催。
 - 昭和5年(1930) 市立診療所(今の市立旭川病院)がつくられる。
 - 昭和7年(1932) 石北線(今のJR)が全通する。現在の旭橋ができる。
 - 昭和11年(1936) ロータリーができる。
 - 昭和15年(1940) 国策ハルプ旭川工場(株)操業開始。
 - 昭和20年(1945) 師団通が平和通(今の買物公園)と改称。
 - 昭和21年(1946) 市立図書館(今の中央図書館)開設。
- 世界や日本では… 大正15年(1926) 12月、大正天皇が崩御、元号が昭和となる
昭和16年(1941) 太平洋戦争が起きる
昭和20年(1945) 第二次世界大戦が終わる
国際連合が成立(昭和31年に日本が加盟)



旧旭橋の取り壊し(昭和2年頃) 写真:旭川市中央図書館



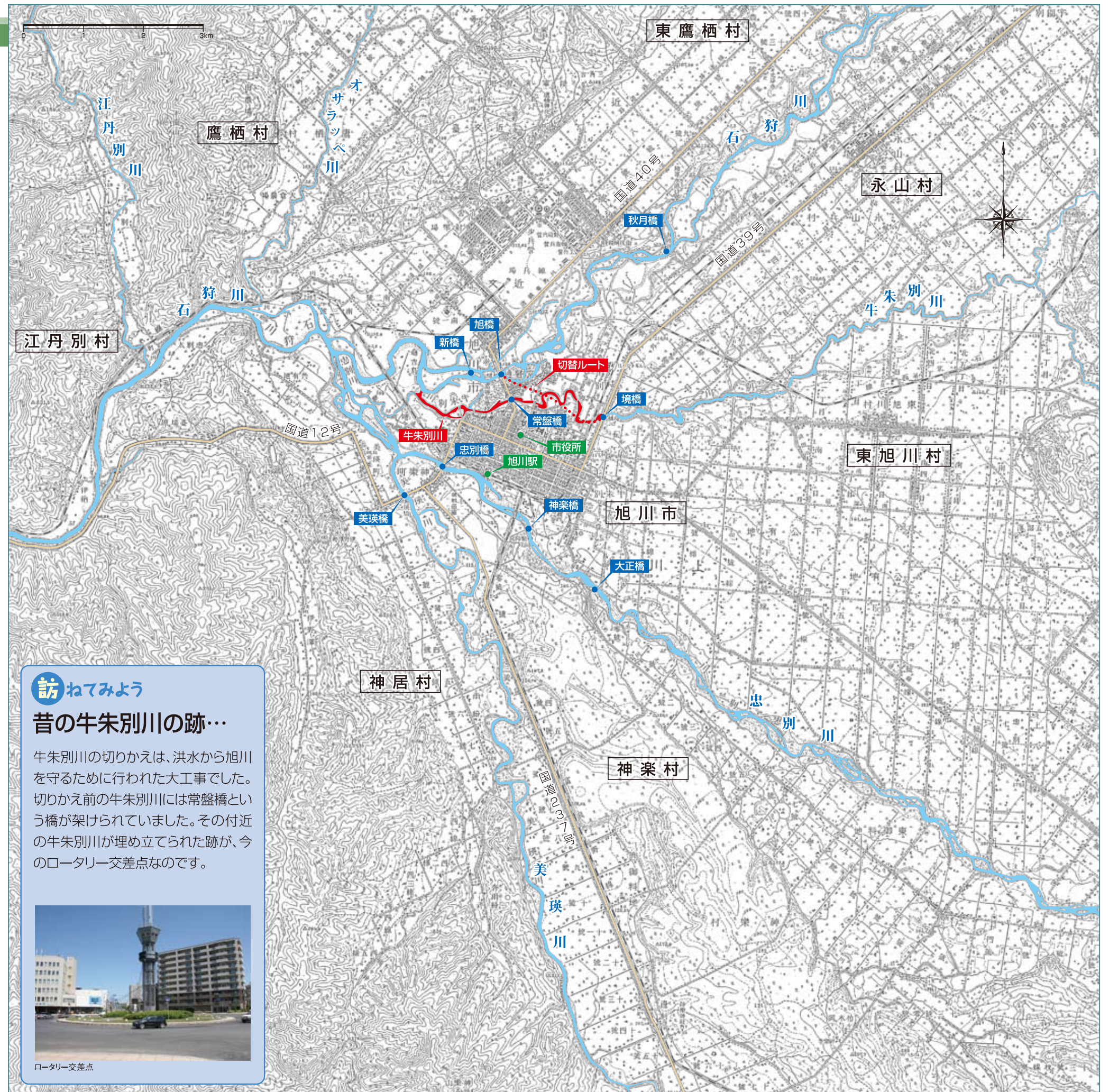
旭橋(昭和14~15年頃) 写真:竹内 巖さん



旧常盤橋[現ロータリー付近](昭和4年頃) 写真:旭川市中央図書館

■昭和5年発行図

「この地図は、国土交通省国土地理院長の承認を得て、同院発行の五万分の一地形図を複製した物である。(承認番号 平16道複 第712号)」



訪ねてみよう

昔の牛朱別川の跡…

牛朱別川の切りかえは、洪水から旭川を守るために行われた大工事でした。切りかえ前の牛朱別川には常盤橋という橋が架けられていました。その付近の牛朱別川が埋め立てられた跡が、今のロータリー交差点なのです。



ロータリー交差点

昭和28年頃



かわとまちのようす

■川のできごと

昭和22年(1947)8月 ————
大雨による川の氾濫

昭和24年(1949) ————
石狩川や忠別川、
美瑛川の本格的な
治水工事が始まる

昭和28年(1953)7月 ————
大雨による川の氾濫

昭和29年(1954)9月 ————
台風15号(洞爺丸台風)
発生

●当時の旭川のできごと

- 昭和33年(1958) 今の市庁舎(市役所)完成。
 - 昭和35年(1960) 第一回旭川冬まつり開催。



**世界や
日本では…**

昭和28年(1953) テレビ放送が始まる

昭和32年(1957) 南極予備観測隊、オングル島に上陸。昭和基地と命名

昭和33年(1958) 3月31日に北海道の人口500万人突破

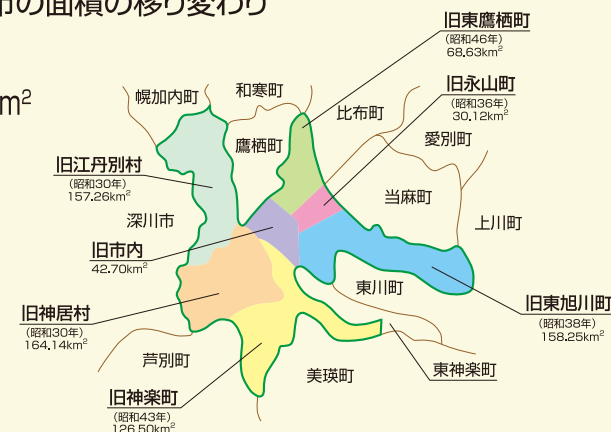
昭和36年(1961) ソ連が人類初の有人宇宙飛行に成功
「地球は青かった:ガガーリン」



石狩川 江丹別ふきんの渡船場(昭和28年頃) 写真:斉藤 和さん

データ 旭川市の面積の移り変わり

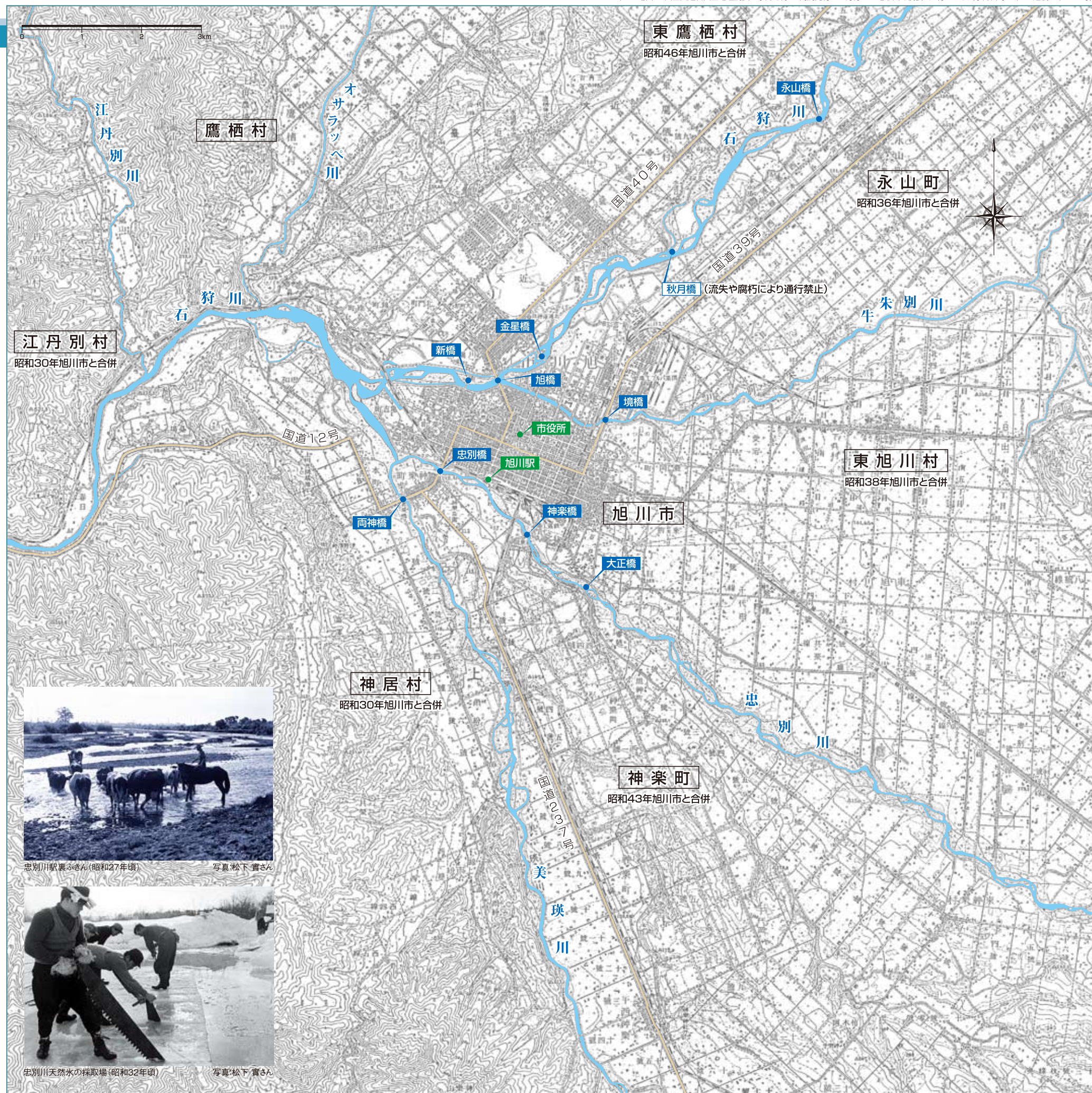
市域面積
747.60km²
旭川市域
隣接市町境界
()合併年次



出典:旭川市の地勢・人口・気象のHPより

■昭和28年発行図

「この地図は、国土交通省国土地理院長の承認を得て、同院発行の五万分の一地形図を複製した物である。(承認番号 平16道複 第712号)」



忠別川駅裏ふきん(昭和27年頃)

写真:松下 實さん

忠別川天然氷の採取場(昭和32年頃)

写真:松下 實さん

昭和44年頃

かわとまちのようす

■川のできごと

昭和36年(1961)7月 ———
大雨による川の氾濫
昭和37年(1962)8月 ———
台風による川の氾濫
昭和43年(1968)7月 ———
大雪ダムの工事が始まる
昭和45年(1970)7月 ———
大雨による川の氾濫

●当時の旭川のできごと

- 昭和41年(1966) 旭川空港が開港。
- 昭和42年(1967) 旭山動物園が開園。(日本最北の動物園)
ロシアのユジノ・サハリンスク市と友好都市提携。
- 昭和47年(1972) 全国初の恒久歩行者天国「平和通買物公園」誕生。
- 昭和50年(1975) 市民文化会館開館。
- 昭和51年(1976) 「ナナカマド」と「ツツジ」を市民の木、花と制定。
- 昭和53年(1978) 「キレンジャク」と「カンタン」を市民の鳥、虫と制定。

 **世界や日本では…** 昭和39年(1964) 第18回東京オリンピック大会開催
昭和44年(1969) アポロ11号月面に人類初めて着陸
昭和47年(1972) 第11回札幌オリンピック冬季大会が札幌で開催



男山自然公園より(昭和48年頃)



石狩川を渡るSL。この当時は蒸気機関車が、木材や石炭などを運んでいました。

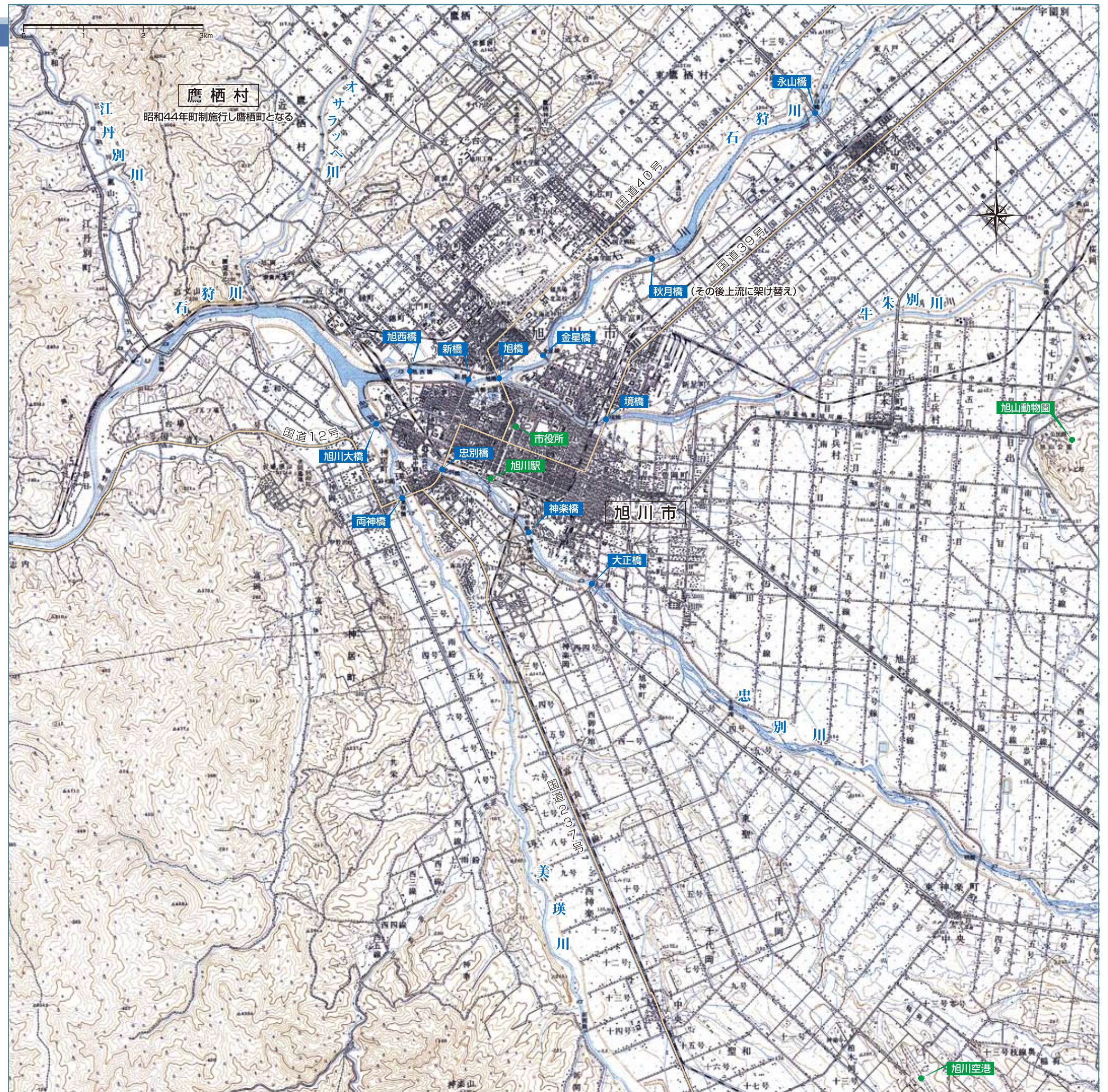


嵐山のつり橋(昭和42年頃)

写真:旭川市中央図書館

■昭和44年発行図

「この地図は、国土交通省国土地理院長の承認を得て、同院発行の五万分の一地形図を複製した物である。(承認番号 平16道複 第712号)」



昭和55年頃



旭川市の人口データ 352,793人 (昭和55年9月)

かわとまちのようす

市街地はさらに大きくなりました。特に住宅地の拡大が目につきますが、その一方、昔の地図と比べると、水田などの面積が少なくなっているのもわかります。川のようにも、しだいに今と同じような姿になってきています。

川のできごと

昭和50年(1975)7月 —— 台風による川の氾濫
昭和50年(1975) —— 大雪ダム完成
昭和56年(1981)8月 —— 台風による川の氾濫
昭和59年(1984) —— 永山新川の工事が始まる
忠別ダムの工事が始まる

当時の旭川のできごと

- 昭和56年(1981) 第一回国際パーサースキー大会(今のパーサーロベット・ジャパン)開催。
- 昭和57年(1982) 旭川空港にジェット機が就航。
北海道立旭川美術館が開館。
- 昭和59年(1984) スタルヒン球場がオープン。
- 昭和61年(1986) 旭川大雪アリーナが開館。
- 平成元年(1989) 韓国の水原市と姉妹都市提携。
- 平成2年(1990) 開基100年記念式典及び記念イベント「日本のまつり・旭川」開催。

世界や日本では… 昭和56年(1981) スペースシャトルが打ち上げられる
昭和63年(1988) 青函トンネルが開業する(連絡船廃止)
昭和64年(1989) 1月7日昭和天皇が崩御。元号が平成となる



写真: 臺 洋子さん



旭西橋付近(昭和55年頃)

川は憩いの場所。この頃から川辺でのイベントも多くなっていきました。写真左は川下りの様子。(昭和52年頃)

あさひかわの思い出ものがたり

「昭和45年、50年、56年の大洪水」

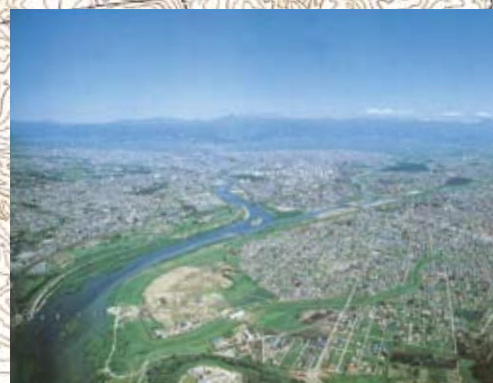
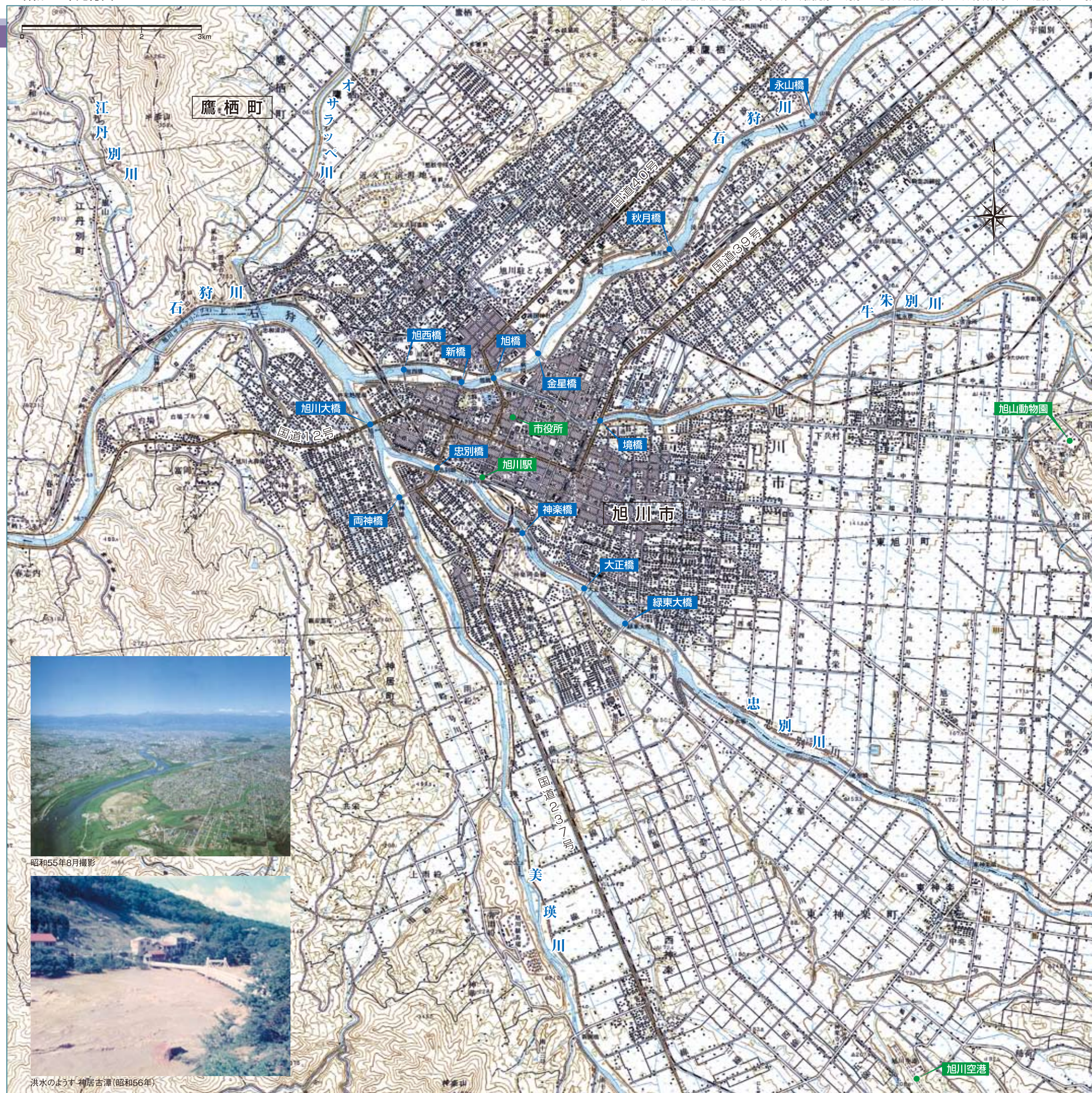
川を直線にする工事が進められても、旭川は何度も洪水に襲われました。昭和45年には、前線による大雨で、永山地区などで川の水があふれ、多くの家が水に浸かりました。さらに昭和50年、台風6号などにより市内3,000戸が浸水被害を受けました。また昭和56年の大雨でも、被害を受けました。



牛朱別川右岸 当麻町(昭和45年)

昭和55年発行図

「この地図は、国土交通省国土地理院長の承認を得て、同院発行の五万分の一地形図を複製したものである。(承認番号 平16道複 第712号)」



昭和55年8月撮影



洪水のようす 神居古潭(昭和56年)

平成12年頃

旭川市の人口データ 362,369人 (平成15年9月)



かわとまちのようす

北海道で2番目に大きなまち旭川市。その発展の歴史を表すように、地図全体に市街地が広がりました。旭川空港は、滑走路を2,500mにのびし、美術館、福祉センターなどの施設もつぎつぎに生まれました。永山新川も完成し(6ページを参照)、川は、昔とは違った流れとなっています。

川のできごと

平成13年(2001)9月 ———
台風により
家屋、田畑に被害
平成16年(2004) ———
永山新川完成
平成19年(2007) ———
忠別ダム完成

●当時の旭川のできごと

- 平成5年(1993) 井上靖記念館開館。
- 平成6年(1994) 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館開館。
- 平成10年(1998) 三浦綾子記念文学館開館。
- 平成11年(1999) 上川支庁など道の6機関、永山の土川合同庁舎に移転
- 平成14年(2002) 市民参加推進条例施行。
- 平成16年(2004) 旭橋が北海道遺産に登録される。
- 平成17年(2005) 旭川市科学館「サイバル」開館。

世界や日本では...
平成5年(1993) 北海道南西沖地震
平成7年(1995) 阪神・淡路大震災
平成12年(2000) 有珠山噴火
平成14年(2002) サッカーW杯日本と韓国で開催
平成17年(2005) 知床が世界遺産に登録



石狩川 カヌー大会



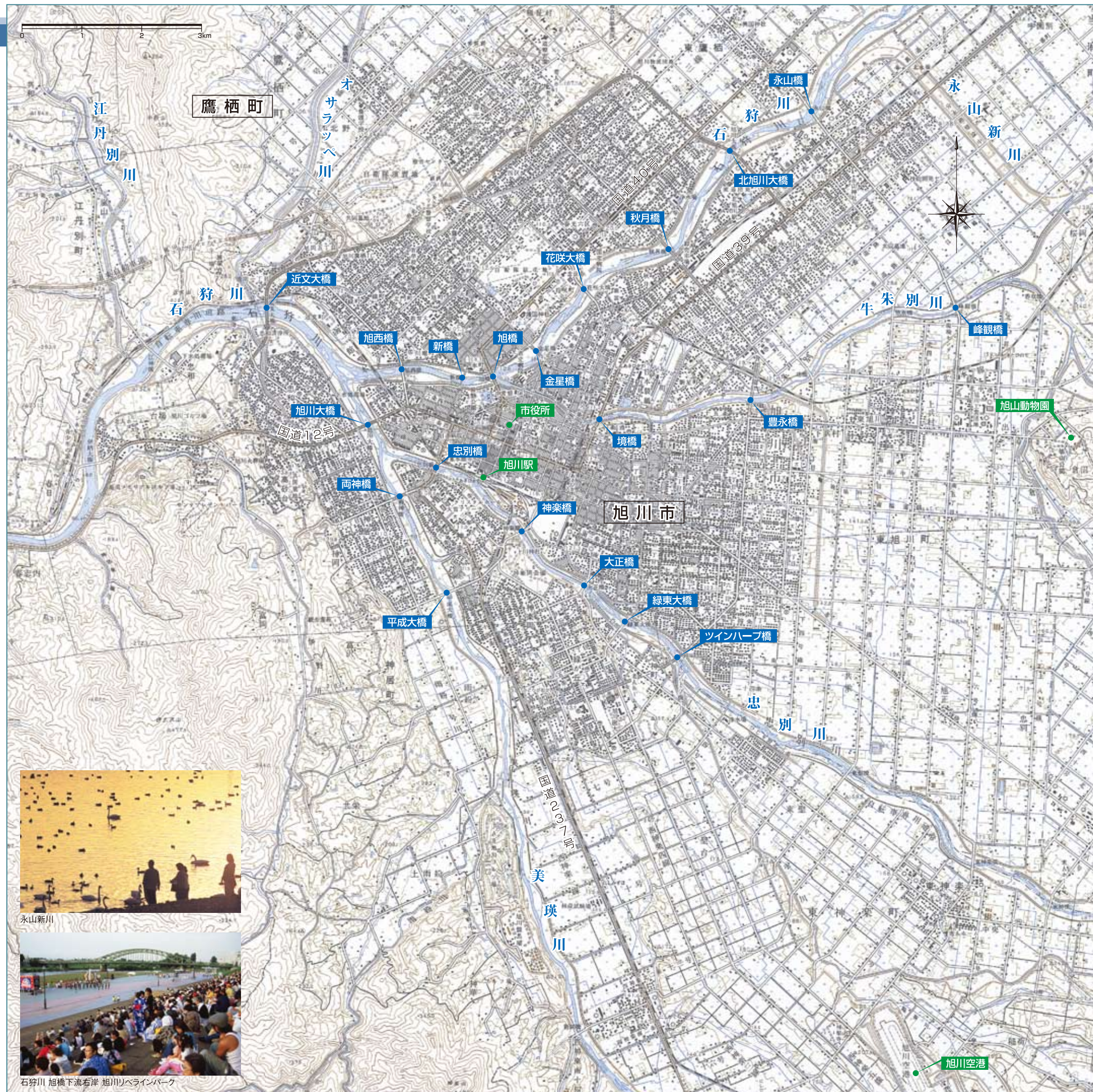
石狩川 マラソン大会



石狩川 新橋下流 石狩川と大雪山

■平成12年発行図

「この地図は、国土交通省国土地理院長の承認を得て、同院発行の五万分の一地形図を複製したものである。(承認番号 平16道複 第712号)」



永山新川



石狩川 旭橋下流右岸 旭川リベリンパーク

平成23年



旭川市の人口データ 350,983人 (平成24年4月)

かわとまちのようす

旭川市では、平成8年度から旭川駅周辺開発事業「北彩都あさひかわ」を進めています。そのなかの1つ忠別川では、国と連携しながら地域交流拠点にふさわしい自然豊かな水辺空間づくりや、堤防の整備などが行われています。「北彩都あさひかわ」の事業完了時には、新旭川駅舎から河川敷へ直接出入りができるようになるだけでなく、周辺地域からも自転車や徒歩で容易にアクセスができるようになり、“街と川とが連携する新しい都心部”が、創出されることになります。

詳しくはこちら

旭川市公式ホームページ <http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/>

●当時の旭川のできごと

- 平成20年(2008) 「旭川市総合防災センター」完成。
 - 平成22年(2010) 旭川市開村120年記念事業「北の恵 食ベマルシェ」開催。
 - 平成23年(2011) 11月、第4代旭川駅開業。
- 世界や日本では… 平成20年(2008) 北海道洞爺湖サミット開催
平成22年(2010) 世界総人口、69億870万人
平成23年(2011) 東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)
平成24年(2012) 5月、東京スカイツリー開業



北彩都垂直写真(平成24年)

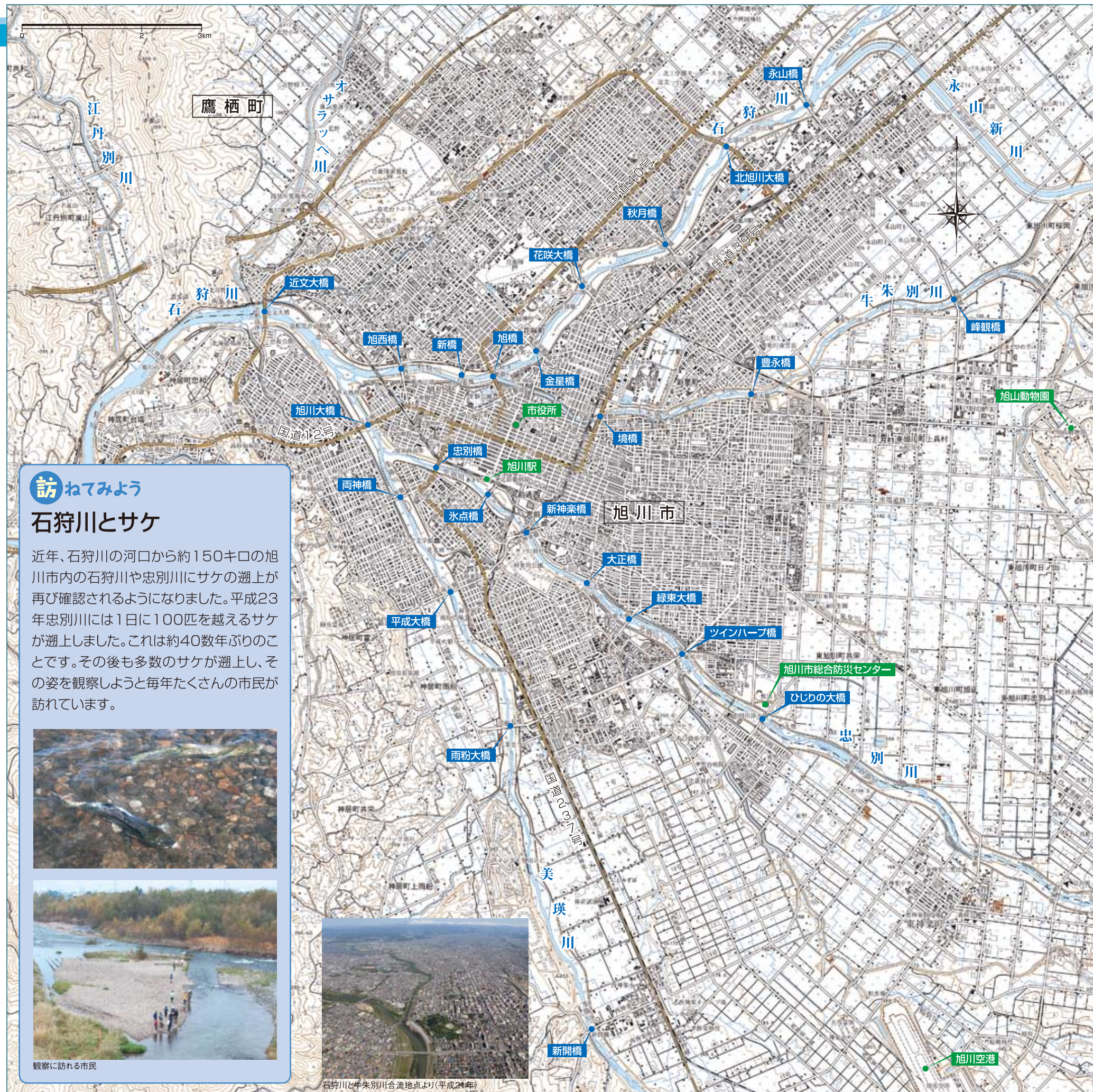
写真：(株)日興ジオテック



新しくなった旭川駅と忠別川(平成24年)

■平成23年発行図

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平23情使、第293-29350号)」



訪ねてみよう 石狩川とサケ

近年、石狩川の河口から約150キロの旭川市内の石狩川や忠別川にサケの遡上が再び確認されるようになりました。平成23年忠別川には1日に100匹を超えるサケが遡上しました。これは約40数年ぶりのことです。その後も多数のサケが遡上し、その姿を観察しようと毎年たくさんの市民が訪れています。



観察に訪れる市民



石狩川と牛朱別川合流地点より(平成24年)

写真で見る 旭川周辺の川 今・昔

石狩川

むかし



明治33年(1900)頃 近文

写真：旭川市中央図書館

いま



平成24年(2012)

むかし



大正期 旭橋付近

写真：旭川市中央図書館

いま



平成24年(2012)

石狩川と 旭川

左の写真は、近文山から旭川方面を望んだと思われます。今は樹木が繁茂し、同じアングルからの景色は望めません。
右の写真は近文山の近くの、嵐山展望台からの風景です。市街地が広がっているのが望めます。



昭和3年(1928)頃

写真：旭川市中央図書館



平成23年(2011)

むかし



昭和14年(1939)頃 旭橋下流

写真：竹内 巖さん

いま



平成24年(2012) 北海道音楽大行進のようす

むかし



昭和15年(1940)頃 常磐公園と旭橋

写真：四方 忠男さん

いま



平成24年(2012)

むかし



昭和28年(1953)頃 江丹別付近の渡船場

写真：斉藤 和さん

いま



平成24年(2012)

写真で見る 旭川周辺の川 今・昔

石狩川

むかし



昭和33年(1958) 旭橋下流 石狩川の簡易自然プール 写真：旭川市中央図書館

いま



平成24年(2012)

むかし



昭和40年(1965) 旭橋下流 写真：大槻 政勝さん

いま



平成24年(2012)

むかし



昭和40年(1965) 石狩川・牛朱別川合流点 写真：大槻 政勝さん

いま



平成24年(2012)

昔の川と橋を見てみよう

タイムスリップ!

写真：旭川市中央図書館



大正期 忠別川 大正橋



明治35年(1902)頃 石狩川 鷹栖橋(現旭橋)より



昭和30年(1955)以前 石狩川 金星橋



昭和32年(1957) 美瑛川 両神橋

むかし



昭和56年(1981) 神居古潭 8月洪水

いま



平成24年(2012)

写真で見る 旭川周辺の川 今・昔

忠別川

むかし



明治24年(1891)頃 神楽橋(大正2年に忠別橋に改名) 写真:旭川市中央図書館

いま



平成24年(2012)

むかし



大正8年(1919) 旭川駅前付近の航空写真

写真:旭川市中央図書館

いま



平成24年(2012)

牛朱別川

むかし



大正11年(1922) 中島師団通り(現常盤通り) 8月洪水 写真:旭川市中央図書館

いま



平成24年(2012)

むかし



昭和4年(1929)頃

写真:『日本地理体系』昭和5年発行 旭川博物館所蔵

当時の写真説明文には「写真は旭川市西部の景観でよく新興の街の気分が窺われる。中央に流れるは牛朱別川でその左手前には近代式的常盤公園が見られる。公園の更に左側には石狩川が流れ公園は両者の中間に介在する故に中島公園とも称せられ風光に一段の興趣を添へる」とあります。

いま



平成24年(2012)

空撮写真で見る

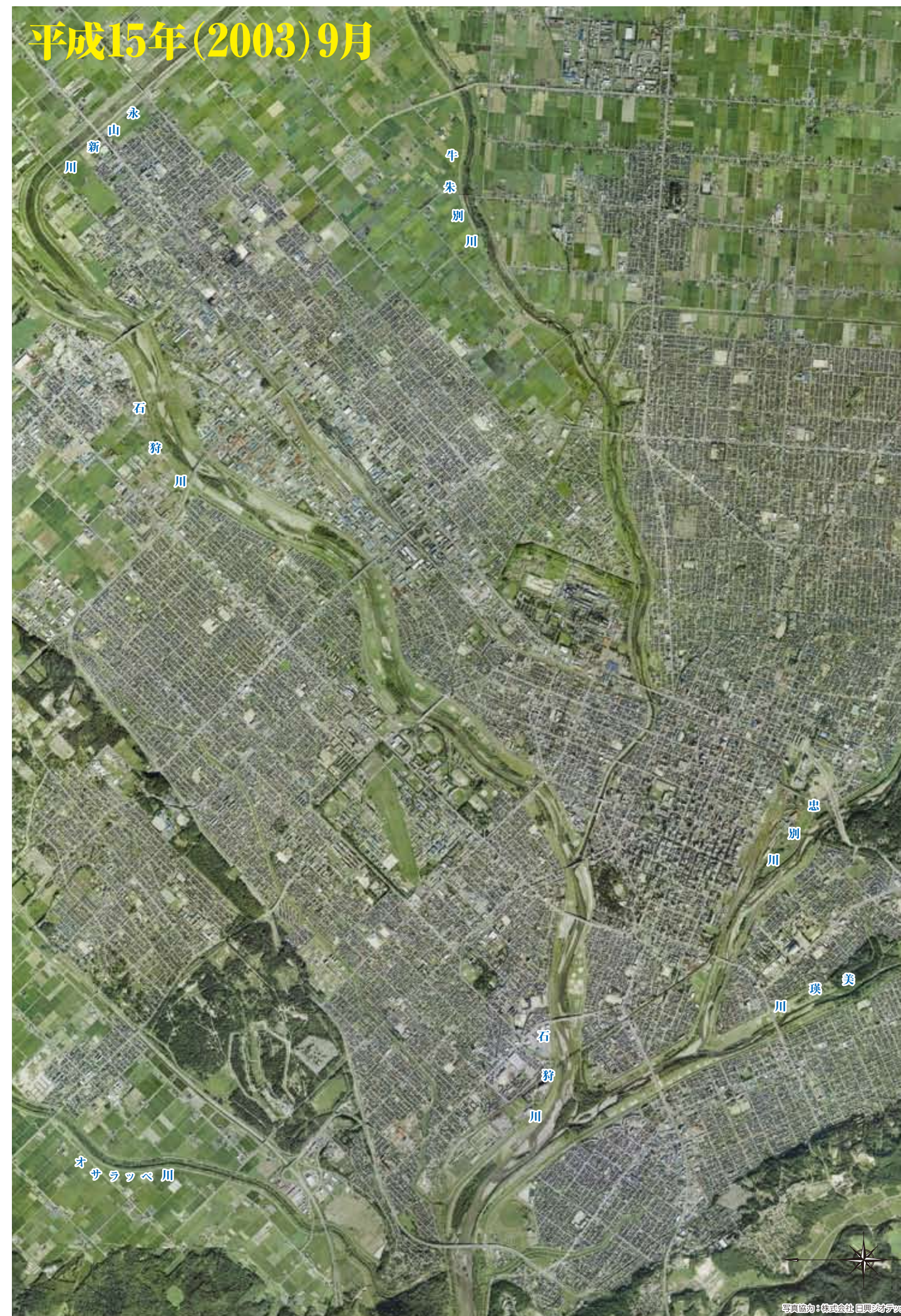
旭川周辺の川 今・昔

昭和23年(1948)



写真：米軍撮影空中写真(国土地理院)／旭川開発建設部資料

平成15年(2003)9月



写真協力：株式会社 日興建設